

第6回
土佐清水市中高生弁論大会
弁論集



土佐清水市教育委員会

目次

はじめに 土佐清水市教育委員会教育長 弘田 浩三

①	スポーツをやっけていくなかで	清水中学校	1年	扇喜 賢児	1
②	お母さん	清水中学校	1年	岡田 百々花	2
③	私とおじいちゃんとオードリ	清水中学校	2年	遠近 さくら	4
④	価値観	清水中学校	2年	切詰 紅羽	5
⑤	故郷の魅力	清水中学校	3年	松下 倫仁	6
⑥	母の背中	清水中学校	3年	岡田 彩央	8
⑦	相手の立場に立ってみる	清水高等学校	1年	岡林 美乃理	9
⑧	人種差別について	清水高等学校	1年	安岡 優香	11
⑨	ツバキ再生プロジェクトについて	清水高等学校	1年	依光 琉星 細川 勇輝 橘 涼葉	13
⑩	将来やりたいこと	清水高等学校	2年	池 綾乃	15
⑪	私の夢	清水高等学校	2年	徳岡 奏美	17
⑫	災害後のライフラインについて 土佐清水市の状況確認	清水高等学校	2年	宮崎 果七	18

講評 土佐清水市中高連絡協議会会長・清水高等学校校長 益永 貴仁

はじめに

第6回土佐清水市中高生弁論大会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

過去5回弁論大会を開催してきました。その中で内外から非常に良い評価をいただいております。「中学生と思えない。高校生になったら考える幅も出来ているし、深い考え方をしている。」というような高評価をいただいています。

今日は、中学生6名、高校生6組8名で行います。12組の発表があると思いますが、今まで5回の大会以上のものが発表されるのではないかと考えています。

プログラムを見せていただきましたが、身近な日々のことから始まって将来の夢まで幅広い分野で弁論が行われます。

多少の緊張はあると思いますが、緊張の中でいい発表ができるのではないかと期待しているところです。今日は、聞く側にいる児童生徒の皆さん、ただ漠然と聞くのではなく自分のこれまでの体験・日々の生活あるいは自分の考えとも対比しながら聞くといいのではないかと考えています。

そして、この形になって運営の方も生徒会の皆さんで運営をしてくれています。最後まで運営の方お願いしたいと思います。

長い間学校現場の方では、先生方によって指導していただいたと思います。今までの先生のご苦勞に対してこの場を借りてお礼を申し上げます。

今日の準備等を進めてくれた教育センターをはじめ、渭南保護司会の方に対してお礼を申し上げます。

第6回土佐清水市中高生弁論大会が成功に終わることを祈念してあいさつに代えさせていただきます。



平成30年12月13日

土佐清水市教育委員会教育長

弘田浩三

『スポーツをやっていくなかで』

清水中学校1年 扇喜 賢児

ぼくは、中学校に入学し、バスケットボール部に入部しました。

バスケットをやっていく中で、顧問の先生は「心・技・体の中で、心ができてこそ、技と体が追いついてくる」ということを教えてくれました。最初僕は、「技さえできれば、バスケットはうまくなるのではないか」と思っていました。でも、本当は、技だけではなく、心も体も必要なのだと学びました。

僕は、実際に試合に出るようになって、このことに気づかされました。ボールを取る時や守っている時に、身体と身体をぶつけ合うことがあるので、体は必要だということ。そして、相手を思いやったパス、味方のことを考えてシュートを打つときに、相手を思う心、が必要だということでした。

部活の練習の中で、技と体は努力で身につけてきますが、心はなかなか練習だけでは身につけません。僕たちは、心を作るために、意識して取り組んでいることがあります。それは、部活中、体育館に先生やお客さんが入ってきた時に、その人の方を見て、「こんにちは」と大きな声であいさつをすることです。そのおかげか、強い心が育ってきて、練習試合などで良い攻め方ができてきたと思います。



前にテレビで、無名だったある高校のサッカー部が、新しい監督になって、初めて全国大会に出場し、その後、全国大会出場の常連校になったというのをやっていました。そのサッカー部の監督は、まず、部員に部室の掃除をさせ、部員の生活を改めさせたそうです。また、部員が授業に出ていなければ、教室まで連れていき、寝ている部員を見つけたら、教室から引っ張りだして真剣に叱ったそうです。ほかに、人と出会ったときには、全員があいさつをする。学校に入るときには、校門で一礼してから入るようにする。このようなサッカー部の取り組みが、全校生徒に広まって、いっしょに学校全体に広まったそうです。

その学校を卒業した人の中には、今年開催されたワールドカップで大活躍した、サッカー選手、この高校のサッカー部がここまで強くなったのは、心ができたからだと思います。人と会った時には、すぐにあいさつをする。それだけでも、チームは強くなれると思います。だから、今僕たちの取り組んでいることは、心を鍛えるための第一歩だと思い、小さな行動から、丁寧に行っていきたいと

思います。

どのスポーツにも共通して、心は大切だと思いますが、特に、バスケのように数人でやるスポーツでは、心が必要不可欠だと思います。味方を思いやる心がないと、自分勝手なプレーをしてミスをしてしまったり、勝手に腹が立って怒ったりしてしまうときがあるからです。

なので、思いやる心を作ったら、味方のことを常に考えて動け、自分勝手な行動はしなくなると思います。

これは、スポーツに限ったことではありません。相手を思いやる心は、生活をしていく中でも必要です。例えば学校生活の中で、授業の教え合いや実験などで、思いやった心が必要だと思います。その理由は、教え合いは相手のことを考えて分かりやすく教えてあげないとだめだし、実験は、班の皆が役割分担をして、協力してやらないとできないからです。授業以外でも、友だちとの関わり合いの中で、相手を思いやった行動や声かけが必要な時があります。他にも、地域での祭りや行事などで地域の人と協力することが多いので、そこでも仲間を思いやる心が必要だと思います。このように、部活以外でも心をつかう場面が多くあります。

僕は、バスケというスポーツをやっている中で、一番大事なことは心だと学びました。だからこれから、部活の中だけでなく、学校生活の中でも、心を強くもち、心を鍛え、精神面で強くなっていきたいと思います。

『お母さん』

清水中学校1年 岡田 百々花

優しくて、何でもできて、弟や私のことをいつも考えてくれるお母さん。そんな母は、今から三年前、私が小学四年生の時に亡くなりました。亡くなる前日、いつものように、父と弟と一緒に母の入院している病院に、お見舞いに行っていました。その日は一日中病院にいて、夏休みの宿題ができていなかったため、いったん家に帰りました。私は宿題をして、夕飯を食べました。父が夕飯を食べ終わってまた病院へ行っている間、私たち兄弟は、寝る準備をしていました。そうしていたら、父が慌てて家に戻ってきました。私はいやな予感がして、わけを尋ねると、母が危ないということでした。私は慌てて車に乗り、「一分でも早く母の元へ行きたい」「どうか無事でいてほしい」そう祈る気持ちで夜中の十一時に家を出て、病院へ向かいました。私は車の中で、「お母さん、死なないで」という言葉だけを繰り返して言っていました。病院に着くと、母はすでに息を引き取っていました。私は、「なんで：」という思いで、いつまでも涙を流していました。

この母の死をきっかけに、私は変わりました。私は、今までよりよく泣くようになりました。母がいなくなり心細い気持ちになり、自分がどんどん弱くなっていくような感じがし

ました。例えば、友だちとじゃんけんをして、負けて悲しくなつて涙がでるくらいでした。それで、私はいつも周りの友だちを困らせてばかりでした。私は、こんな風に些細なことでも泣いてしまつては友だちを困らせてしまう自分が大嫌いでした。こんな私なんかいなくなった方がいいとさえ思うこともありました。でも、母のことを思い出して、世の中には、母のように生きたくても生きられない人がいるのに、何不由なく生きられる私が死にたいと思うのはおかしいと、何度も自分に言い聞かせました。そして、少しずつではありますが、私の心の中にはいつも母がいて、私のことを見守つてくれていると思うと、心を強く持てるようになってきました。だから、もし、私と同じように家族の誰かが亡くなつて心細くてどうしようもなくなつていく人がいたら、こう言つてあげたいです。「亡くなった家族は、心の中にずっといるし、あなたを見守っているよ」と。自分がその立場だったら、悲しくてどうしようもなくなる気持ちはいくらもありません。私もそうでした。でも、少しずつでいいから、前を向いて生きていけば、一日一日の人生が変わってくるはずで



す。亡くなった家族は、学校についてきているかもしれないし、あなたのそばにいるかもしれない。なので、一人ではないということを知れば、きっと強くなれると思います。みなさんの周りにもそのような人がいたら、その人はきっと心細くなつていっていると思うので、その時は、あたたかく慰めてあげてください。それだけで、心が軽くなると思います。私も、周りの人たちのおかげで、このようなことが発表できるまで強くなれました。

最後に、天国の母に伝えたいことがあります。「病気が治つてから直接伝えるつもりだったけど、今までお父さんや弟、私のために毎日家事をしてくれてありがとう。お母さんがいなくなつてさみしいけど、私はこれから、パティシエになる夢を叶えるため頑張ります。なので、見守つていてください。」

母がいなくなつて、寂しい気持ちは何年経つても変わることはありませんが、心を強く持ち、自慢の娘だと思つてもらえるような人になりたいです。

『私とおじいちゃんとオードリー』

清水中学校2年 遠近 さくら

私は最近心に残ったことを話したいと思います。

私の母方のおじいちゃんとひいおじいちゃんは、『オードリー』という犬を飼っていました。オードリーは、私たちの家族が来るたびにしっぽをブンブン振りながら走り回って出迎えてくれます。そのたびに私は、うれしくって、いつもなでては、かわいがっていました。

私たち、子供が走り回っているとオードリーも一緒に走り回って、毎回おじいちゃんに、「コラ！」と怒られては、いよんぼりしていました。でも、オードリーは、私が帰るたびにいとこたちと一緒にこれを繰り返しては怒られるのが定番になっていました。

私が成長していくとともに、オードリーも一緒に歳をとっていきました。私が六年生になると、オードリーは、腰を悪くしてうまく歩くことができなくなりました。

中学生になると、腰の状態が悪くなって、私たちを出迎えるにもこれなくなり、散歩にもいけなくなりました。ひいおじいちゃんは、オードリーを大変かわいがっていたので辛いんじゃないかなと思っていましたが、「オードリー長生きし

てるから、ギネスのれるってお医者さんがいつとったわ。」と話してくれて私を少し明るい気持ちにさせてくれました。けど、やっぱり腰とうごかない足をひこずりながら前足だけで一生懸命出迎えてくれるオードリーを見ると私は辛くてたまりませんでした。

私がいとこに、「オードリーもう長くないかもしれんね。」と、つぶやくように言うと、少しだ

まってから、「なんでよー。おおちゃんは、これからも現役じゃろ。」と、笑って返してきました。その時の私はなんでこんな状態のオードリーを見て、笑っておれるがやろうと不思議でたまりませんでした。

そして、去年、私が部活から帰ると、お母さんが、「さくら、おおちゃん亡くなったって。」と、悲しそうな声で話してきました。私は、信じられなくて、何度も何度も聞き返してしまいました。

冬休み、おじいちゃんの家に帰ると、オードリーより先におじいちゃんが出迎えてくれました。いつもみんなが集まる部屋に行くと、オードリーの仏壇があって、やっとここでオ



ードリーが亡くなったということを信じる事ができませんでした。仏壇に飾られたオードリーの写真を見てみると、ひいおじいちゃんが側に座ってこんなことを話してくれました。

「オードリーな、倒れてからすぐに病院に運んで、酸素マスクつけたんやけど、お医者さんに、『今夜で最後です。』言われたからひいおじいちゃん側におることにしてな、途中でいつものように、『オードリー』って呼んだら、目を開けて、しんどいのにしつぽふつてくれたんで。」それを聞いた時、私は、涙があふれてきました。

「あんな小さい体で最後まであきらめずに一生懸命生きとったわ。」オードリーは最後に大好きだったひいおじいちゃんの顔を見ながら亡くなっていききました。

ひいおじいちゃんと私はその日、オードリーの思い出話をしました。すると、すぐ近くにオードリーがいるような気持ちになりました。ひいおじいちゃんは、寝る時もオードリーと一緒に同じ布団に入って寝るぐらい仲良しだったので、一番悲しいのはひいおじいちゃんのはずなのに、笑顔を絶やさず、私が笑うまでずーっと話をしてくれました。

オードリーのおかげで人の優しさにもふれられました。オードリーとの思い出のおかげで楽しかったことも思い出せました。

今、一番に、オードリーにありがとうと伝えたいです。

『価値観』

清水中学校2年

切詰 紅羽

価値観とは、人それぞれ違うものです。例えば、誰かが記念にもらった物は、その人にとっては大切なものです。周りの人から見ると、関係ないもので、人それぞれの価値は異なります。

ここで、皆さんに考えてもらいたいことがあります。人の生きる時間、人生に価値をつけるとしたら、どのような価値を付けますか。

僕の考えですが、人の生きる時間、人生に異なった価値があつてはいけないと思います。ある日、誰かが、傷つけられ、悲しむことでその人の時間が損害されることはあつてはいけないことです。自分と違う所を馬鹿にし、のけ者にするのはなく、互いを認め合い協力することが大切だと思います。次に価値のないことについて話します。これは殺人や強盗といった犯罪です。犯罪を犯した後にあるのは、不幸だけです。自分は、罪を受けるし、罪を受けた後も、友達を失い生きていくのも辛くなります。それに家族も、非難され、周りの人にも被害を与えます。自分のすることをやる前に考えることが大切だと思います。

最後に、自分の大切なもので、皆にも大切にしてほしいも



のについて話します。それは、家族や友人の周りの人達です。この人達がいるおかげで、自分は支えられ、生きていけるのです。例えば僕たち子どもから、急に家族が消えたらどうでしょう。衣・食・住を失い生活していくことは不可能でしょう。このように、周りの協力があつて自分が成り立つと思いません。だから、自分も、自分の周りの人、ものを大切にしていつてもらいたいと思います。

もう一度最後に戻ります。人それぞれで価値観は異なります。自分の中で価値のないものと思っているものも、気付いていない価値があるかもしれません。自分の周りのものを見直すことでそれに気付くこともあると思います。

『故郷の魅力』

清水中学校3年 松下 倫仁

僕は足摺岬に住んでいます。

足摺岬は観光地なので、GWや夏休みなどの休日には、全国からたくさんの方が観光に来ます。なので、小学校の校庭やホテルは、車で埋めつくされています。それに、いつもは人通りが少なく、車もあまり通らない道路も、この時は、道いっぱい人が歩き、車も多くなり、すごくにぎやかになります。

でも、休みが明けると、あつという間に、静かないつもの足摺岬に戻ります。僕は、にぎやかな足摺岬も好きですが、静かな足摺岬も好きです。

今の土佐清水市は、少子高齢化が問題となっています。若い世代が少ないため、土佐清水市は元気をなくしていると思います。僕は、若い世代の人たちが一時的に地元を離れることがあつても、また帰ってきて清水で働いて欲しいです。そうすれば、この土佐清水市は元気を取り戻し、活気のある町になると思います。

僕は将来、清水で働いて、地域に貢献したいと思っています。この生まれ育った土佐清水市を残していきたいです。

土佐清水市は、店が少なかったり、ハイヤーが少なかった



り、路線バスの便が少なかったり、不便なこともあります。でも、それ以上に、都会にはない魅力がたくさんあると思います。

みなさんは、土佐清水市のよいところと言うと、どんなことを思い浮かべますか。僕が思う土佐清水市のよいところは、自然豊かで、人が優しく、人と人のつながりがあるところですよ。

僕たちは、いつも当たり前のように、世界に続く雄大な太平洋を見ることができると、釣りたての新鮮な魚も食べられます。でもこれは、都会で暮らす人にとっては、当たり前ではないのです。僕たちは、恵まれた自然環境の中で育てられているのです。

また、僕たちは地域のたくさんの人々に見守られ、育てられています。僕は、毎朝スクールバス乗り場に行く時、会う人にあいさつをしています。僕が大きな声であいさつをする時、その分大きな声であいさつを返してくれます。おかげで、いつも気持ちよく一日が始まります。地域のお年寄りの方たちは、子どもが大好きで、いつも優しくかわいがってくれま

す。また運動会などの行事では、たくさん集まって応援してくれます。

このように考えると、不便な点もありますが、僕にとって清水は、とても住みやすく、離れてもまた帰って来なくなるような、そんな所です。

僕は、生まれ育った地元を愛しています。今の世の中は豊かになって、お金さえあれば何でも手に入ります。しかし、どんなにお金を出しても手に入れることのできないものが、この土佐清水にはあります。壮大な自然に囲まれて育ち、生活していく中で、当たり前だと思っていることも、都会に行けばそうではありません。だから、こんなにも恵まれた素晴らしい清水で生きられることに、僕は感謝しています。

でも今、清水を離れ、都会に出て行く人が増えています。これがどんどん続いていくと、いつかこの土佐清水市がつくりあげてきた伝統や文化が途絶える日がきてしまいます。そうなれば、自分たちの故郷はなくなってしまう。広くきれいな海、どこまでも続く水平線、いくら遠い所でも足を運んでみたくなる、この清水の景色が見られなくなります。

そうならないためにも、僕たちの手でこの故郷を守っていかなくてはなりません。今度は、自分たちが生まれ育った故郷に恩返しをする番です。お世話になったこの地に感謝し、僕たちはかけがえのない故郷を守らなければなりません。次世代を担っていく僕たちが、また次の世代へと清水の伝統や

文化を受け継いで、よりよい清水にしていきたいです。
進学的事情などで一時的に地元を離れても、僕は必ず戻って来て、清水を元気な町にしていきます。

『母の背中』

清水中学校3年 岡田 彩央

突然ですが、みなさんは自分のお母さんのことをどう思っていますか。人それぞれ考え方は違うと思います。これから私は自分の母についての話をしたいと思います。

私の母は先生をしています。母は朝早く起きて、学校の仕事をし、私が起きてくる時間に朝ご飯を作ります。それから、学校で仕事をした後、帰って夕飯を作ります。お風呂に入ったら、仕事の続きをすることもあります。そして、九時半には塾に通っている私と弟を迎えに来るのです。

私の見ている母は、毎日が忙しそうで、ゆっくりしている時は、日曜日の数時間ぐらいです。「疲れた」「しんどい」「寝たい」という言葉を言うのは、母より私の方が多いです。私より母の方が疲れているはずなのにと考えると、自分のその言葉が情けなく思えてきます。

母の口から「疲れた」と言う時は、何かをやりきったよくなすがすがしい顔をしています。母の中での「疲れた」は、自分の力を十分に出して、最後までやり遂げた時に使う言葉だと私は思います。私は、自分にできるか不安な時、「無理かも」とか「いやだな」とか言う時、母は「やってみると分かんと思うぞ」と言っています。

私は、そんな母を尊敬しています。もちろん、母に対して不満に思っていることもあります。「勉強しようが?」「テストどうやった?」などと喋ってききますし、弟にも怒りますが、私よりずっと甘いです。別に何もしてないのに、機嫌が悪い時もあります。正直言って、とても面倒くさいなと思うこともあります。

怒られて私が変な顔をしたら、もっと怒ります。そんな時は「嫌い」とかそんな単語を言って、その場をやり過ぐし、一人になろうとします。それでも追いかけてきて、母は私と向き合おうとしてくれます。

そんな母が、この前仕事の宿泊研修で4日間家にいません



でした。毎朝、目覚まし時計と母の大きな声で起きています私にとつて、1日目はとても大変でした。朝少し早く起きて、朝ご飯を作るのも予想以上に大変で、洗濯やお皿洗いも手伝ってはいましたが、毎日やるとなるとすごく疲れました。

母は、私の洗濯物の出し方に、いちいち言ってくるので、細かいなと思っていました。でも、実際その時自分がやってみて、初めて母の気持ち分かりました。

ご飯を作っても、洗濯をしても、お皿を洗っても、母の仕事はそれが当たり前であり、私自身もそう思っていました。だから、お礼を言う意識をもつのは、母の日か誕生日だけになってしまいます。母の仕事は、一番大変な仕事だけど、一番「ありがとう」と言われることが少ない仕事だと思います。そのことが、この4日間で私がかかったことです。

母はこんな仕事を15年間もずっとやってきたのです。4日間経って、家に帰って来た母が、私に最初に言った言葉は、「ありがとう」でした。母からしたら、私の4日間の仕事は自分の何百分の一のはずなのに、お礼を言ってくれるのです。きっと自分がしているから、私の気持ちをすぐ分かってくれたのだと思います。

15年間ずっと育ててくれた母に、いつも全力で応援してくれる母に、私は何ができるか考えました。母は、「健康でおってくれたら、それが一番親孝行になるがで」と言います。しかし、先生という大変な仕事と、家の仕事を毎日続けてく

れた母に対して、私が毎日健康でいることだけが親孝行になるのでしょうか。

忙しい母に、私は一番自由な時間をあげたいです。でも、そんなことはできません。せめて私は、母に心配をかけないくらいの自立した人になりたいと思っています。

そして、母のように強くて、温かい大人になりたいです。

『相手の立場に立ってみる』

清水高等学校1年

岡林 美乃理

私は今回、障がい者の人権について考えました。そのきっかけとなったのは「24時間テレビ」です。障がい者の方々が一生懸命に頑張った様々なことを成し遂げている姿を見て感動したという人もいたと思います。しかし、ネットなどではこの24時間テレビに対する批判の声が上がっていました。

「障がい者に努力を要求する姿勢が残念。」「感動ポルノ。」「聴

覚障がい者である私にとって『差別』を利用した番組にうつる。」など、厳しい意見が飛びかっており、初めて目にしたときは少し衝撃を受けました。

これまで私は、24時間テレビで義足の女の子が登山する姿や、障害を持っている方が遠泳やダンスに挑戦する姿を見て、『努力すればなんでも成し遂げられるんだ。』とか、『自分も様々なことに頑張ろう。』とか思えるし、普段あまり目を向けない障害について考え直すことのできる良い番組だという考えしか持っていませんでした。しかし、ネットの声を聴いて、障がい者の方の気持ちをちゃんと考える必要があると思いました。

もし、私が何かしらの障がいを持っていて、そして24時間テレビに自分と同じ障がいを持っている方がある企画に必死に挑んで



でいる姿が映っていたとしたら、自分の障がいを見世物にするなどという怒りや、同じ障がいを持っていてのにあの人はできて私はできないという劣等感を覚えてしまうかもしれない。そのように、別の視点・立場から物事を見てみることはとても大切だと感じました。また、このことは私たちの普段の生活にも置き換えること

ができると思いました。

例えば、私の通う清水高校にはエレベーターがなく、階段しかありません。健常者である私にとってはごく普通のことですが、義足の方や車いす生活を送っている方にとってはどうでしょうか。

その人の立場に立って考えてみると、とても困るし、誰かの助けがほしいと考えるに違いはないと思います。実際、清水高校のあの先生が足をケガしていた時も、階段の上り下りがとても大変そうでした。私はその姿を見て、『大変そうだな。』とは思いましたが、「手伝いましょうか？」と声をかけることができませんでした。たぶん、断られて自分が傷つくのが嫌だったからだと思います。

しかし、集会の時、その先生が全校生徒の前に立ってこんなことを言いました。

「ケガをしたのは大変だったけど、そのおかげで皆の大切さを知れた。皆が手伝ってくれたのが嬉しかった。」と。

その言葉を聞いて、私はドキッとしました。私が恐れていたことは一体何だったのだろうと思っただけです。そして、普段の生活の中で困っている人がいたら助けてあげようと思いました。

これは、障がい者の方に限ったことではありません。例えば友達困っていれば助ける・協力するなどのことは、何気ない日常の中で大切にしなければならぬことです。そうすれば友達との関係もより深いものになるでしょうし、交友関係も広がり、新た

な自分や新しい世界に気づくきっかけになることもあるかもしれません。

私は別の視点・立場から物事を見てみることを心に留め、生活していきたいと思っています。

『人種差別について』

清水高等学校1年 安岡 優香

人種差別。それは肌の色や瞳の色、生まれた場所や住んでいるところで差別されるということです。日本ではあまり感じられない人種差別ですが、他の国では存在し、非常に恐ろしい所もあります。

私は今までこの差別について深く考えたことはありませんでしたが、今年の夏、考えるきっかけとなる出来事がありました。私はこの夏休みに学校の活動の一環でアメリカへ行きました。そこで「WESTSIDE STORY」というミュージカルを見ました。アメリカでは有名な物語だそうです。これは、ある街でアメリカ

の少年団と新参のプエルトリコ系の少年団が対立している中、そのグループに属するアメリカ人の男の子と、プエルトリコ系の女の子が互いに一目惚れしてしまい恋に落ちるといふ話です。しかし二つの少年団グループの対立はどんどん激しくなり、最後にはアメリカ人の男の子が殺害されてしまいました。

私はこの話を見て、アメリカの差別について調べてみました。現在は落ち着いているようですが、過去には恐ろしいもので、予想を超えるものばかりでした。権力を握った白人が政治を動かして黒人を差別し、部屋や場所を分け、イスも白人専用などとして区別していました。中でも私が驚いたのは学校を黒人・白人と分けていたところです。

黒人は隔離状態でした。初めは大人達だけの問題だと思っていました。子どもにも差別がありました。肌の色が黒く生まれたというだけで、何の罪もない子どもたちまで苦しい思いをしていたのかと思うとても切なくなります。

しかしそんな中、立ち上がった勇氣ある人がい



ました。マーチン・ルーサー・キング・ジュニア。つまりキング牧師です。彼はアフリカ系アメリカ人公民権運動の指導者として、黒人の自由をめざし、講演活動をしたのです。日本には人種差別はあまりありませんが、部落差別があります。私は今も部落差別があることを思うとぞっとします。私の暮らしている所は自然があり豊かな所ですが、もしその地域が差別の対象になっていたら私はどうするだろう。見下され、結婚や就職の時も差別されるでしょう。その時、私はキング牧師のように周りに訴えることができるでしょうか。きっと批判を受けるのを恐れて何もできないと思います。しかしキング牧師は黒人代表として訴えてくれました。私は彼をとて尊敬できる人だと思いました。

また、キング牧師には「I have a Dream.」という有名な演説があります。その演説では、黒人の考えや過去の経験が述べられています。この「I have a Dream.」という言葉から私たちは様々なことが考えられると思います。「これまでの社会の中では許されないこと、叶わないことがあったが、私には夢がある。」と。ここには叶えたいという彼らの強い意志と前向きな気持ちを感ずることが出来ます。

今では誰もが知る有名なものとなったこの演説をはじめとするキング牧師の努力で、アメリカも変わっていききました。例えば、アメリカの政治上初めてとなる黒人大統領となったバラク・オバマさん。皆から愛される大統領でしたが、彼が大統領になれたことはキング牧師の努力があったからこそだと思います。

日本人にもたくさんの人権問題があります。女性・高齢者・感染症患者への差別や子どもへの虐待など、何の罪もない人々が苦しんでいます。部落差別も完全に消えたわけではありません。他の国にもたくさんさんの問題があり、世界が一つにならなければならぬというのに国内で分離してはだめだと思っています。

このようなたくさんさんの問題を解決するためには皆が意識を持って行動することが大切です。高校生である私ができることは限られています。他の人たちに人種問題のことを教えてあげることとはできません。また、外国人を見た時、自分の中にあるイメージだけでなく実際の姿で理解することが大切だと思います。

アメリカも今は昔のようなことはなく、人々が楽しく共存して生活しているように見えます。しかし少しずつ差別が戻りつつあるということを見ました。そのためもう一度人種差別について考えてもらうために「WESTSIDE STORY」を公演しているそうです。日本にも大変なことがありますが過去を振り返って同じ過ちを起こさないようにするのが大切で、今、私たちにできることを考えたいと思いました。

最後に、私がアメリカへ行った時、たくさんの方々日本人を歓迎して受け入れてくれました。黄色の肌をしているけれど皆さん優しくしてくれました。過去の過ちを抱いてこれから先人種差別がなくなるように私も取り組んでいきたいと思っています。

『ツバキ再生プロジェクトについて』

清水高等学校1年

依光琉星・細川優輝・橘涼葉

僕たち高校1年生は今年度の総合の活動で『土佐清水について学ぶ』をテーマに各班に分かれて活動目標を考え色々な活動しています。今日は僕たちのグループSUEが活動していることについて発表したいと思います。

みなさんは、僕たちが住んでいるこの土佐清水市の花が何か知っていますか？

そうです。椿です。

僕たちは、今回の活動で土佐清水市の花、ツバキの減少について調べました。

僕たちは、土佐清水の自然のことを調べるなら自然のことに詳しい環境省に行こうと考え市役所近くにある環境省にアポを取ってツバキの減少についてのお話を聞きに行きました。

僕たちは、ツバキが徐々に減少していることは知っていました。が、そこまで気にはしていませんでした。ですが、環境省に行ってお話を聞くとこのままでは土佐清水市の花のツバキが完全になくなってしまう。という現状を聞かされました。それとともに、環境省さんが今「ツバキ再生プロジェクト」という活動を二年前からしているというのを聞きました。



ら始まったそうです。

僕たちは、今年の総合の活動を通して、まだあまり知られていない「ツバキ再生プロジェクト」に参加してこのプロジェクトをどうしたらいろんな人に知ってもらえるかを活動目標にして活動していこう!!ということになりました。

そこでまずはこのプロジェクトに参加してみようということになり10月20日に足摺岬のペンションサライの近くで行われるプロジェクトに参加しました。

これは椿の苗の写真です。

今回のプロジェクトの内容はこの苗を育苗ポットへ1つずつ

ツバキ再生プロジェクトは、年に約6万個のツバキの種を植えて約4万個のツバキの苗を育てていこうというものです。ツバキの種はたくさん植えても最後までしつかり育ててくれるのは植えた種の数の約3分の2だそうです。

植え替えるという作業でした。植え替えをするためにはまずその為の土を作らないといけません。

この画像が土を作っている写真です。

鹿沼土と赤土の2種類の土を7対3の割合で水を少しずつかけながら混ぜました。これをこの体勢で混ぜるのはとても大変でした。土ができたなら育苗ポットに植え替えをしていきます。

これは育苗ポットに肥料を入れるまでの写真です。

まず、育苗ポットの底には穴が開いているので底に小さなネットを敷きます。そして白くて軽い石を入れます。次に土を少し入れて小さな肥料を4, 5個入れます。次は肥料が隠れるくらいに土を入れたら苗をまっすぐになるよう支えながら苗の根が隠れるように土を入れたら完成です🌱 それぞれの役割に分かれて作業に取り掛かりました。

これは作業中の写真です。

天気も良くてずーっと作業をしていたので途中で休憩をとりました。

環境省の人がお菓子をくれました。おいしかったです(笑)

清水のシルバー人材センターの方、市役所の観光商工課の方も合わせて約15人くらいが来ていて9時〜12時まで作業をしました。

初めてのことばかりで学ぶことがたくさんあり大変だったけど、みなさんとお話ししながらの作業でも楽しく、あつという間の3時間でした。お話ししている中で色々なことを学ぶこと

もできとてもいい体験となりました。

これから僕たちは2月の総合活動発表会に向けて、この「ツバキ再生プロジェクト」をどのようにしたら皆さんに知ってもらえるか、どの方法が一番知ってもらいやすいかを考えて、環境省さんにも協力してもらいながら実行していきたいと考えています。

ツバキ再生プロジェクトが最初は何なのかわからなかったけど、そのプロジェクトに参加してみるととても楽しくて、これから先ツバキが減少していることをみんなが知って、このプロジェクトに参加する人も増えていってほしいなと思いました。

『将来やりたいこと』

清水高等学校2年 池 彩乃

突然ですが、みなさんには何か目標がありますか？
今回私は、自分のささやかな目標についての話をしたいと思
います。

私は歴史が好きです。父が歴史の偉人が好きで、小さい頃から聞かされてきたからだと思います。その父の影響で日本史、とくに戦国武将や幕末の志士の武勇伝等が好きです。父だけでなく、亡くなった祖父にも地域の昔話などをよく聞かされ、自然と興味がわいた私は小学生の頃は図書室にある伝記や日本神話等を読み漁りました。その後、私が歴史好きだと知った父は、よく夏休み等の長期の休みに家族で出かける時、高知城や松山城、他にも歴史上の人物ゆかりの土地に連れて行ってくれました。そして多くのことを教えてくれました。

教えてくれたことの一つ



に、竜串の地名、「見残し」の由来があります。おそらく多くの方が知っているとは思いますが、弘法大師空海が四国で修行をして回っている時、修行にこれほどまで適している場所を見残したということ、「見残し」という名前が付いたと言われています。このことは私も聞いたことがあったので驚きはしませんでした。私が「へえー！」と思ったのは、三崎地区で唱えられるお経がその影響で他の地区とは違うということでした。

他にも、なぜ和食の汁物のおわんにふたがつくようになったのかだとか、ことわざの由来だとか、歴史の知識とは言ってもほとんどが雑学や教科書には出てこないようなマニアックなものが多かったのですが、私の知らないことをたくさん知っている父を尊敬すると同時に、小学生の私にはある目標ができました。

それは父に「知らなかった。」と言わせることです。

要するに私は父に勝ちたかったです。この目標を持ったのは小学校4年生の時で、私はそれから様々な方法で歴史について調べようになりました。学校の図書室では足りなくなり、市民図書館の移動図書を使ったり、母のケータイや両親のパソコンでネットを漁ってみました。授業で聞いたり、様々な話を父にしてみました。しかし、大概父は知っていた上に、それ以上の話を聞かされ、逆に私が「知らなかった！」と驚かされることになりました。中学校に入ると、マンガやアニメの影響を受け、今までもあまり興味のなかった太宰治や中原中也などといった文豪や中国史にも興味がわき、有名な小説を少し読んで勉強してみました。

したが、それでも父には敵いませんでした。

ですが、先月のことです。ふと見ていた番組でおもしろいものを見つけました。その番組は日本人の名前の由来を探っていくという内容のものでした。

みなさんのまわりにも男性で数字のつく名前の人がいると思います。現在は兄弟が多いことが珍しく、長男には一、次男には二がつくくらいで終わりかもしれません。しかし、何百年も前には一夫多妻制なので十人以上兄弟がいることはざらにありました。そこで、上から順番に一郎二郎三郎のように幼名をつけていくのですが、七郎とは絶対につけなかったそうです。これは、武士は切腹する時、自分でお腹を十文字に切るので、七という字はその十に横棒を一つ足しただけの似た形をしているため、縁起が悪いと考えられたためだそうです。そんな縁起の悪い字を子どもの名前に付けられない、そこで昔の人は、七を三と四に分け、七番目の息子には三四郎と付けていたそうです。

私は「へえー、そうだったんだ。縁起等を担ぐ武士の風習らしいな。」と驚き、愛媛にいる父に電話で話しました。当然父は知っているだろうと私は思っていました。父から返ってきた言葉は、「え、そうやったが、知らなかった。」というものでした。

私にとつてはまさに青天の霹靂です。思わずケータイを落としそうになったのを何とか持ち直し、父に「ほんまに知らなかったか？」と確かめると、「うん。知らなかったけど、何で？」と、私が小学生の時から8年間ずっと目標とし望んだ返事が返って

きました。おしむらくは直接聞けなかったのですが、何にせよ私の目標は達成されてしまいました。

このように、私は8年もかかってようやく1つの目標を達成したのですが、それで終わりではありません。実はまた達成したい目標ができました。

それはまず、日本全国の城や偉人ゆかりの地をまわり、記録として残すことです。有名な、北海道の五稜郭、東京の江戸城、修学旅行でも行った兵庫県の姫路城等々、言えばキリがありませんが、それらを写真におさめ、自分の記念として記録を残すことももちろん、時間もお金もたくさんかかるでしょうが、何十年かかっても、やり切りたいと思います。

また、私は好きな歴史について聞いてほしくて友人によく話をします。例えば、関ヶ原の合戦前、当時の日本で肩を並べるものがないような徳川家康にケンカを売り、家康の豊臣家への裏切りや上杉への理不尽な命に対して異議を唱えた直江状、直江兼続の勇気についてなどです。しかし、友人には「あ、うん、わかった。」と話を切られてしまったり、流されてしまったりします。ある友人には「ちよっとうっとおしい。」とまで言われてしまったこともありました。

しかし、そんなことにはくじけず、自分が大好きな歴史について、記録として残したものを、私の父や祖父のように自分の子どもや孫に伝えること。さらに私が伝えたことを誰かの記憶に残すこと。それこそが、私の将来やりたいこと、将来の目標です。

『私の夢』

清水高等学校2年 徳岡 奏美

私の現在の希望進路は、栄養士の資格を取れる学校に行くことです。

私は化学と生物が好きで、それが生かせる職業を担任の先生に相談し、勧められたからです。それに、私自身も食べることや料理することも好きなので、『これだ！』と思いました。

栄養士になるためには、専門学校、短期大学、大学などで、授業や実習を通して専門的な知識・技術を身につけ、卒業する必要があると思います。そのなかで、生物と化学を合わせた領域のことも学ばなければなりません。そのことを知り、私はもっと高校の授業を大切にして、進学する前にしっかり知識を身につけておこうと思いました。

栄養士になれば、病院や給食センター、介護施設、飲食店、レストランなどで働け、食事や栄養の指導をしたり、献立作成や食材の発注、栄養素の計算など、食事の管理をしたりします。ほかにも食品メーカーに就職し、研究開発や、幅広い栄養に関する知識を武器に営業や広報としても働くことができます。

このように、私は好きな科目や料理を活かして、栄養士の資格を取りたいと思っていますのですが、実は、もうひとつ夢があります。



それは「すみっこぐらし」や、「リラックマ」のメーカー、サンエックスという会社で働くことです。

私は中学校1年生のときから、「すみっこぐらし」というキャラクターが好きで、「すみっこぐらし」の文房具やぬいぐるみなどに囲まれています。毎年誕生日プレゼントには友達から「すみっこぐらし」の贈り物がきます。そこで、私は、自分に癒しを与えてくれる「すみっこぐらし」に関わる仕事がしたいと思い、サンエックスを調べました。専門学校や短期大学や大学を卒業して、進学しようと思っているのですが、クリアできます。人気のメーカーなので、就職試験は厳しいと思いますが、私は挑戦したいと思っています。

さて、「栄養士になる」とことと、「サンエックスで働く」ということは一見まったく別のことのように思えますが、これを同時に叶えることが私の一番の夢であり、目標です。

それは、サンエックスと全国の本屋がコラボして、期間限定で開店されているカフェに参加するということです。

キャラクターを愛する気持

ちを活かして、お客様に喜んでもらえるようなメニューを開発していく。そのときに、栄養士としての知識を生かして、健康にも気を付けた献立にすれば、幅広い世代に利用してもらえるカフェになるのではないかと思いますし、そうなれば私の夢は二つとも叶うことになりました。

とても難しいことなのかもしませんが、この目標があるだけで、私は進学先でも、高校生活でもがんばっていきます。みなさんも、初めから無理だとあきらめずに、自分の好きなものを生かせるよう、いろいろなことを調べたり、計画を立てたりしてみてください。そうすれば、今、自分が何をしなければならぬかが分かり、具体的に行動できるようになると思います。夢はひとつでもふたつでもいいので、それが遠い夢ではなく、実現できる夢になるようにしていくことが大切ではないでしょうか。

『災害後のライフラインについて』

土佐清水の状況確認く』

清水高等学校2年

宮崎 果七

近い将来に必ず来ると予想されている南海トラフ地震について、私たちは今まで学習してきました。しかし、今回は視点を変え、震災後について考えてみることにしました。

今まで私は震災前から震災発生中の期間のことを予想し、どう対処するかということなどを考えていましたし、皆さんも同じだと思います。もちろん、そのことを考えることも一番大切だと思いますが、私は震災後のことを考えることも同様に必ず考えなければならぬことだと思います。なぜなら、身体的にも精神的にも震災後の方が苛酷なものになると思うからです。そこで今回は、震災後に必要だと思えることをいくつか挙げていこうと思います。

まずは、周囲の状況確認についてです。震災後は家族や友人の安否、被害の状況などで情報が錯綜して混乱する場合があります。しかし、そんな時にこそ冷静になり、町や建物、津波などの状況を把握し、最も安全な策を考え行動することが大切です。ただでさえ危険な状況で何にも考えず先走れば、さらに危険なことに遭うかもしれません。つまり周囲の状況確認こそが第一とい

うことです。一つ例を挙げると、清水高校であれば橋を確認することが大切です。地震の後すぐに橋を渡って大丈夫なのか、それとも別の方法を探すべきか、ちゃんと確認し、その上で橋を渡って高台を目指すのか、橋は渡らずに裏山に登るのか、臨機応変に避難を開始することが安全の確保につながります。



次に、防災備蓄品の確認をすることです。災害時には必ず防災倉庫や持ち出し品の物を使うことになります。その際に確認もせずに使ってしまうえば自分や周りの人たちの首を絞めてしまうことになるでしょう。万が一備蓄したものが少ない場合でも、正確に品や量が分かっているれば、食料や水を節約して救援物資を待ったり、どうにか確保する方法はないかと考えたりすることができずです。

ちなみに、備蓄しておくものとしては、食料品や水だけでなく、冬なら毛布など、夏なら帽子やブルーシートなど、その時の気候

に対応できる物も備蓄しておくことをオススメします。津波が引いてから町の方へ行くことを考えれば靴底の厚い靴や手袋も持っておくといいでしょう。あとはペットボトルにガーゼハンカチなどがあればる過して水を確保することもできるので、そのような方法も頭に入れておけば被災時に役に立つでしょうから、みなさんも機会があればインターネットなどで調べてみてはどうでしょうか。

そして、携帯電話・ラジオについてです。被災時は確実に電気が使えないため、携帯も使えなくなるので、慌てて家族や友人に連絡しようとせずに、いざというときのためにその時にあるバッテリーの残量を残すよう電源を切るようにしましょう。家族との連絡には災害伝言サービスを使えば電池の節約になります。同じくラジオも電波が通っていない可能性があるのでなるべく使用を制限し、電波がつながりしだい周囲の状況確認に使うべきだと思います。

最後に、ボランティアについて。被災後すぐに自衛隊の人たちの救助活動が始まります。しかし、自衛隊だつてできることには限界があります。そんな時私たちがすべきことはボランティアとして活動に参加することです。今の私たちではできることは少ないでしょうが、そのほんの少しでもやれることを見つけ皆と協力し合えば作業もスムーズに進み、周りの人も勇気づけられ、皆が抱えている不安も少しずつ消えるのではないかと思います。

今回発表したこと以外にもまだ私たちがしなければいけない

ことが多くあると思うし、それ以外でも解決しきれなかった課題も多いと思います。

しかし、私たちは自分の意思にかかわらず、こうして自然災害と向き合うことがこれからも必要になると思います。ですから、自分は大丈夫と楽観視したり、最初から諦めたりすると、いざというとき何もできません。そうならないように今ある課題を少しずつ一つでも多く解決し、災害時にそのことを活かせるようにする。それが今の私たちにできることだと思います。



清水高校
司会 2名



清水高校
弁士 8名

清水中学校
弁士 6名





開会前の様子
緊張気味！！



プロジェクター係
の二人

会場の様子



講 評

弁士の皆様ありがとうございました。

運営をしてくださったスタッフの皆さんありがとうございました。

大きく分けて2つの流れがあったように思います。

1つは、例えば学校のこと、家族のこと、故郷のこと、そういった身の回りのことに様々な経験を通していろいろなことを理解していく、新しく理解していく、そういう話がありました。非常に大事なポイントだと思います。

そういったものから自分の考えをしっかりと持って大きく一步を踏み出していく、前を向いていく、そこには弁士の強い決意・目標があったと思います。非常に聞いていてすごいと思いました。

もう一つは、価値観、人権、差別、将来の夢、進路、防災といった様々な自らの考えの中で具体的例を挙げてそして自分の考えをまとめながら人へ伝えていく、そういった発表もありました。非常に自分の考えをまとめて伝えるということは難しくそして勇気がある事です。ここにいる弁士は、その考えを自分の言葉でまとめ伝えてくれました。ここにも決意・目標があったと思います。

ここにいる小中高生、これから近い将来進路決定を迎えると思いますが、そのためにも様々な体験をし本と出会い人と語り合って自分の意見や考え方、今の弁士のように自分の言葉で伝えるという経験を積んでください。これからの進路を考える時、経験が大切になってくると思います。

今日は12組の発表がありましたが、非常に一つ一つが心に残る発表でした。これから一年後皆さんそれぞれ学校生活を通じていろいろな経験をし、また、来年のこの時期行われるであろう弁論大会には、新たな人たちの発表を期待しながら待っていたと思います。

今日は本当に弁士の皆さんありがとうございました。簡単ではありますが、講評に代えさせていただきます。

平成30年12月13日
土佐清水市中高連絡協議会会長
清水高等学校長
益永 貴仁



第6回 土佐清水市中高生弁論大会 弁論集

発行年月日

平成31年1月21日

発行

土佐清水市教育委員会

編集・作成

土佐清水市教育センター内 土佐清水市少年補導センター